



TITLE:

プレアデスと私

AUTHOR(S):

大山, 督

CITATION:

大山, 督. プレアデスと私. 天界 1925, 5(59): 459-466

ISSUE DATE:

1925-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160331>

RIGHT:

ブレアデスと私

大山 督

夏から秋へかけた随分と永い間、天界の女王としてその優しい銀色の光りに私達を慰めて居てくれたリイラ座のおりひめが、彼女の親しいお友達であるアークタウルや、アンタールスや、リブラや、北冠の星々や、殊には戀人のひこほし達と共に西の空の彼方に沈みましてから、天つ御空は全くその面目を一新してしまひました。そして、物待ち顔に明け放たれた東天の幔幕をひきしほつて、優しいと云ふよりは寧ろ鋭い、親しいといふよりは寧ろ氣高い感じのする諸々の冬の星座が今や凍りつく様な夜空の圓天井に一刻におし並んで華々しく出現して参りました。御覽なさい。その莊嚴なる劇的光景を。御聽きなさい。その典雅なる群星の囁きに。

先づふり仰ぐ南方の空、眞正面に當つては、右に白皎々たるカストア、ボルツクスの二豪傑を従へ、左に赤爛々たる金牛アルデバランをひきつれた巨人オリオンが、悠久こゝに幾萬歳、その光輝ある勇姿を宇宙幾億の星辰に向つて仰がしめて居るではありませんか。又その右下の方には、天上最大の輝傑シリウスの率ゆる大犬座の一群、及びシリウスとオリオンのベテルギウスと相對峙して星宿に於ける三國志を形ち作

つて居る光雄プロシオンの小犬の一族、それからこれらの諸犬に睨まれたまゝ、身動きもならず立棘んで居る兎座の可憐なる姿等が仰がれるでは御座いませつか。更に勇者オリオンと肩を並べて天頂一際高き所に燦々たる瑤光を輝かして居るカペラ。カペラと隣り合つた所に、夜毎々々奇しくもその光度を變じては初心の星覗き者に疑問の謎を投げ掛けて居るアルゴール。彼等も亦、冬天一方の立役たるに相應しい丈けの、そして、又あの界限では珍らしい情熱的な光彩を放つて居るではありませんか。また、あの傳説によく出てくる椅子の女王カシオペアは、宛もこれら群星達の割據分立した形勢を見物して居るかの如く少しく北に遠退いて、流石に優しい瞳を瞬かせて居るではありませんか。

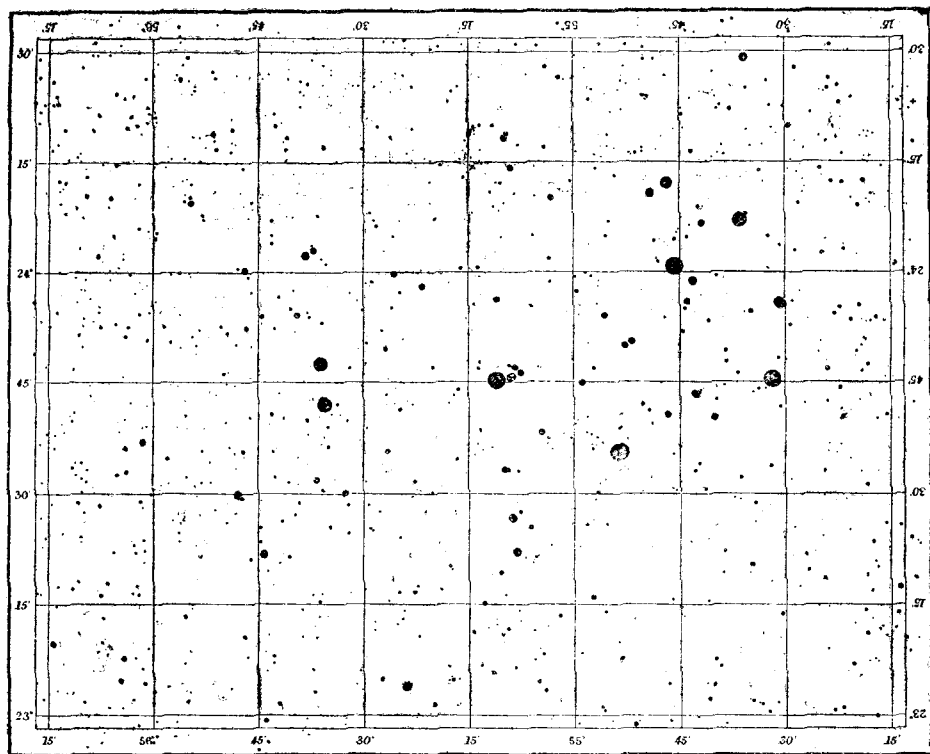
曾て吉田源治郎さんも云はれました通り、實に地上の萬象が荒涼とした冬の夜は、輝星に富んだこれらの輝かしい星座が毎夜毎夜優麗な姿相を展示して、如何程天界に無關心なものの眼をも何時しか魅惑して快よい美の蕩酔へみ導いてくれるのです。冬は夜の世界です。夜は星の世界です。そして、星は私達の世界で御座います。ですから私達の希望に燃ゆる

ブレヤデス圖の星圖

世界最大の望遠鏡を以つて眼に映する十七等の最微星までも含む

上は北、下は南、右は西、左は東。縦横の線は赤經赤緯の十五分づつの目盛りを示す

(審分點は一八八五年)



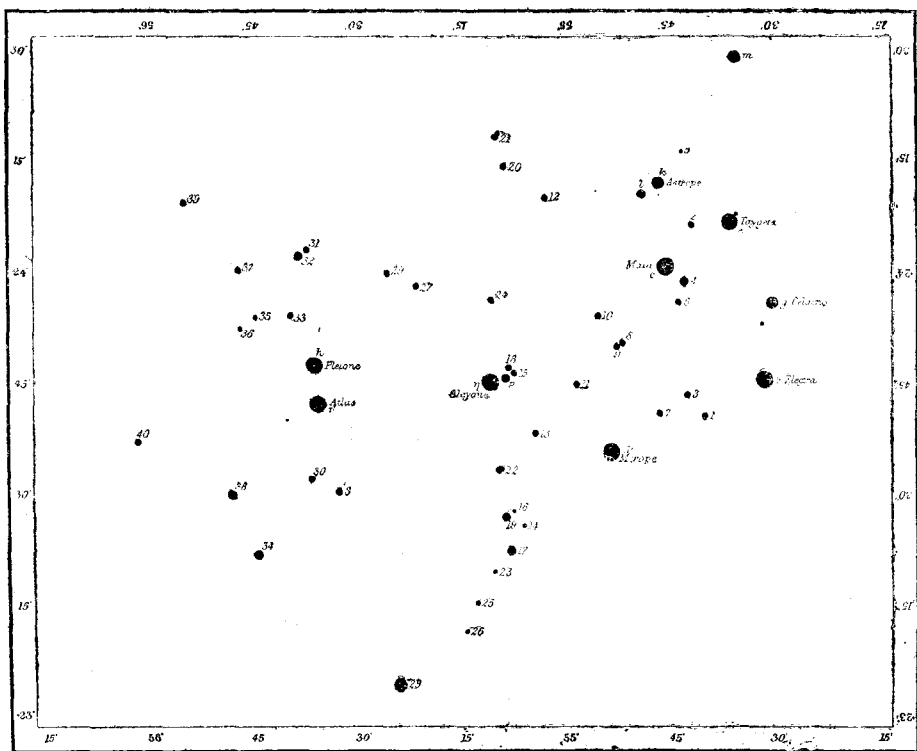
フレヤデス團の案内圖

光輝の順に

アルシオン(三・〇等級) B5型
 アトラス(三・八) B8
 エレクトラ(三・八) B5p
 マイア(四・〇) B5
 メローペ(四・三) B5

タイゲータ(四・四等級) B5型
 プレイオン(五・二) B8p
 セレーノ(五・四) B5
 アステローペ(五・九) B8
 其の他

上圖及び口繪と比べられよ



若き瞳が最も活躍するのは、この輝かしい星座に富んだ冬の夜空であらねばなりません。が私達は、もう一つ、是等無数の星辰碧落を蔽ふ中に、必ずや閃々として瞬いて居る、實にも優しく美しい星々の一群を見出すにはおかないでせう。

それが牡牛座所屬の星團ブレアデスであつて、即ち、私の今話さうとする所のもので御座います。

皆さん。皆さんは定めし正岡子規の歌つた

眞砂なす數なき星のその中に我に對ひて光る星あり

こいふ歌を御存知でせう。又同じく

たらちれの母がなりたる母星の子を思ふ光り我を照せり

こいふ歌も御存知でせう。そして皆さんにも矢張り子規と同じ様に、いろ／＼な意味から、又氣持から、春か夏か秋か冬か何れかの季節に於て屹度一つの或ひはそれ以上の御自分の好きな星又は星座といふものを（例へば自分は優しいおりひめが好きだとか、雄々しいシリウスの光りに懐かしさを覺えるとか、或ひは美しい白鳥に特殊の情緒をそられるとか）お持ちになつて居られませう。私にもそれが御座います。そしてそれは、このブレアデスなのです。けれども皆様の中にも随分このブレアデスの好きな方がお有りになることゝ思ひます（それはこの星々が如何に美しく且つ魅惑的なものであるかこいふことを反證する。ここの一挿話に過ぎないものです）否、全世界に於ける凡ての星覗き人にこりまして

このブレアデスは彼等の戀人であるかも知れません。さうです。此地上におきましても、かの絶世の美人ミカ申す御婦人に對しまする時には、凡ての場合に皆の方が好感を持たれる………こいふことがあるさうですが、それと同様にこのブレアデスは私達の中の唯一人の目にだけ觸れるには餘りに美し過ぎるので御座います。況してや天は萬人のもので御座います。「此處から此處までが吾輩の天である」なごみ限ることは出来ないで唯一人の目にだけ觸れるには餘りに美しいこの星々は、所詮、私達凡ての人々の好きな星となつたので御座いませう。

白銀の組紐の中に、もつれ合ふ螢の一群かの如く、

閃々を輝き乍ら、柔かな物陰からブレアデスが立現れる

ミテニスンは歌つて居ります。日が暮れて間もない頃、錢湯の歸りみちなごでも宜しい、暫く寒さを堪えて、東の空を仰いで御覽なさい。さうしますと、時刻の移るにつれて、今迄何も見えて居なかつた薄暗の中から、チラ／＼花びらの様な瞬きを乍ら、或ひは、白銀の屑を、そこにだけかためて振りまいたかと思ふ様に消えつこもりつしづ／＼立現れるこのブレアデスを見るこことが出来るでせう。諸々の國々で、私達や、又私達のお友達の方がつくつた神祕的な傳説は暫くおくこ致しましても、何と皆さん、私の好きなブレアデスは優しい光を放ち、懐かしい瞬きを交し、幽しい想ひを

語り、氣高い感じを起させてくれるではありませんか。

私は彼女等を見て居るに丁度昔のお武士が刀をみて胸がすいたと同じ様に氣も心も全く爽やかになつて、身は冬枯れの浮世にあり乍ら魂だけは、何だか温い天上のバラダイスにでも遊んで居る様な恍惚を感じずには居られないのです。

私は、一度、夢でこのブレアデスに遊びに行つたことが御座いました。元來、星の夢といふものは夢判斷なぞを見ますに餘り薫しからぬ様で御座いますが、兎も角其筋道だけを話しますに大體かうなのです。

先づ夢の通例に致しまして、途中の所はさうも何處を何う通つたのか明確には覚えて居りませんが、私が夢の中で意識したときには、私に既にあのブレアデス星團に到着して、その中の一つらしいのに乗つて居ました。私はそこで、いつもの如く天を仰いだわけですが、さうしたものの、私が地球で見て居た時には、あんなに澤山ちらついて居ましたのに、實際來て見るに一つも見えないぢやありませんか、そして、唯天頂高く、丁度お日様位な星が三間許り間をおいて二つ並んで居るだけなのです。それにその光りが強くて、とても／＼眼なんか開けては居られないのです。で、茫然として、空を眺めて居りました（私はもうすっかり悲觀してしまつたのです。）すると、突然、私の背後から肩を叩くものがあるではありませんか。驚いて振返つて見るに、そこにはこの地球に住

んで居るに同じ様な人間でまるでソクラテスその儘の容貌に服裝ををした長髯白髪のお翁が立つて居りました。今想ひ出したのですが、あそこに光つて居る大きな二つの星はこのブレアデスの星の中の片割れに違ひないのです。そして、今、私の居る星の親星（丁度地球に對する太陽のやうに）に違ひないのです。に、その老翁はいさも涼しい聲で、

「お前は何故空を仰いで居る、空の事を知りたいにでも云ふのか」

に非常に親切に話かけて來ました。私もブレアデスの優しい姿を見失つて失望して居た際でしたから大いに喜びまして元氣よく、

「えゝ、そうです」

に答へますに、その老翁は、

「それなら俺が教へてやるから、先づ／＼何はさもあれ、わしの住家まで來るがいゝ。」

に申します。早速お供するにいふ事に定めまして、老翁の後から従ひました。家といふのは、それは一つの大きな岩窟で御座いました。私は、そこで、かの老翁から數限りない話に澤山の饗應に預りました。暫らくするに段々世の中がうす暗くなつて參りましたので、吃驚して表へ飛出して見ますに、先きの二つのお日様（假にお日様を申して置ます）の中一つは疾くに沈んだらしく、今一つのが、奇天烈な岩山の端にひ

つかゝつて居ました。が、それも見る／＼落ちてしまひまして、やがては全くの暗黒になりました。かくして夜は訪れ、數多の星辰は輝き始めたので御座います。するに、この時かの老翁が出て参りまして、一々叮嚀に指ざし示し乍ら、幾千の星々を詳しく説明して呉れるのでした。そして、老翁が最後に指ざしたのは、一群の見るからに優しい、美くしい、懐かしい感興の涌く星々で御座いました。老翁はそれについてかう申しました。

「あれは……座の星々で、俺等はあれをブレアデスと呼んで居る。」

「私は不思議でなりません。兎も角、私は今ブレアデスに来て居る筈なのに、この老翁は「天の彼方、彼處にブレアデスあり」みたいなのですから、私はこの老翁は私を馬鹿にして居るのではあるまいかと思ひました、で、この我々の今居る世界は何と呼ぶのか聞きます。」

「これはわし等の地球である。」

「こ答へます。愈以て愚弄して居るに違ひない。それならそれでこちらにも考へがあると思ひましたので、」

「では私はあのブレアデスに行つて見ることにする。」

「言葉尻も荒々しく直ぐにも飛立たうに（斷つておきますが私には繪に見る天女の羽の様なものがありました）致します、かの老翁は、」

「しばらく待つてくれ。」

さて、大凡次の様な事を話しました。

「わしは、凡ゆる天文を辨へて居る者であるが、不幸にしてお前の様に、宇宙を飛び歩くに云ふ事が出来ない。それでお前に頼むのであるが、何卒あのブレアデスを見たならばもう一度遊びに来て、あちらの見聞談を聞かせて呉れ。」

私はこれを承諾するに共に再び天上のブレアデスに向つたものでした。光にも幾萬倍した速力が私に加へられたものを見えます。やがてブレアデスも大部接近して参りました。皆さん、何に驚かされるではありませんか、それは私達の太陽を始めスピカや、レグルスや、ヴェガや、アンタレスや、シリウスや、其他私達がつね平生、肉眼でお馴染の星々ばかりで仲よく隣り合つて居る一つの星團だったので。確か白鳥座の六十一番星につかまつて、随分探し出した結果やつて地球を見付けて舞下りる事が出来ましたが、却て振返つてかの老翁に別れをつけた方角を見るに、やつぱりあのブレアデスが優しくも懐しい瞳で私を眺めて居るではありませんか。あゝ、やつぱり老翁の住んで居る所も間違なくブレアデスだったので。かくして私は私の兄の横に寝て居る自分を發見したので。つまり、私の夢はこれだけです。そして私はこの夢を見てから一層ブレアデスが好きになりました。好きになりましたから、よく眺めます。一度眺め始めたら、

風邪をひくのを忘れて眺めて居ます。それは天文を知らない人には恐らく想像もつかない馬鹿け切つた事であるかも知れません。が、しかし、それは確かに無益な時間ではないのであります。

想を遙かなる宇宙の限界に飛ばして、永遠から見た人生、社會、自我といふものを考へるさいふこゝ、それは寧ろ實に尊い、氣高い、そしてなかなばならぬ私達人間の大切な義務の一つであると思ひます。

お酒に酔ひ、美人に枕して、騒ぎ且つ唄ふ。成程面白さうです。他人と争ひ、土地を争つてお互に傷け合ふ。如何にも勝てば愉快でせう。然し、私達天文をやつた者の目から見るときは、如何にそれらの事が些細な、そして下らない、馬鹿け切つた事に見えるこゝでせう。そこに至るこゝ、この天文學は實に、高尚で、優雅で、又なく有意義なもので御座います。この位實意的なお金のかゝらない、それで居て、學問と道樂とを兼ねたものはないのであります。

空測るうてなの上にのほり立つ我をめぐりて星輝やけり。(子規)
何ほ詳しく天文を知つたからにて、是れ許りは他の諸科學の様に理智的方面に傾くこゝ云ふ様な事がない。常に知識の進歩と共に、情操も亦益々豊かに養はれて來るので御座います。ですから確かに私達天文家(素人でも構ひません)は一個の立派な詩人で御座います。たゞ、路畔に鋤鎌を擔ぐお百姓で

あつても天を仰いで月日を知るものは詩人で御座います。皆尊い詩人であるこゝ云へるのです。詩を解する敬ふべき一つの藝術家であるこゝ云へるのです。

皆さん。天文學は理學の一部であると同時に文學の一部なのです。ですから天文學は研究すべき學問であると同時に、感賞すべき劇材なのです。學ぶべきであると同時に、感すべきもののなのです。所が、嬉しい事には、この天文學は學びさへすれば容易に感賞し得る重寶な學問なのです。研究すればする程、何時でも之を劇の材料として、いろ／＼な意味に於ける物語りの一部に、自在にひき入れるこゝが出来るので天文をやりますれば詩人になれる。否、天文家即ち詩人であるさいふ意味がこれで充分にお分りになつたらうと思ひます。

皆さん。皆さんは生れつきの天文家でない限り必ず天文を知るに至つた何かの動機さいふものをお持合はせでせう。そしてそれは(大低の場合)屹度、六ヶ敷い天體距離の測定からなきてはなくて、み空に輝く千萬の星さか或ひは彗星の出現さか流星の影しい飛び方さいふ様な感賞的方面にその第一歩を踏み出して居られると思ひます。さうです。ですから理學的方面に發達した頭腦は同時に文學的方面の發達をも物語らねばならぬ筈です。この意味に於て。私は皆さんが皆さん各自の御思想なり御抱負なりをぞん／＼御寄稿なされて、常

々皆さんが御希望のより内容を豊富にこいふこみを皆さん自身編輯の人達をお助けして實現されんこを切に希望致します。思はず話が脇道に外れましたが、ブレアデスの距離ミか光度ミか等いふものに就ましては、私よりも却て皆さんの方がよく御存じの事と思ひますから、こゝには省く事にして最後に一寸、一言、ブレアデスが冬夜の星々である爲に私達にかく迄も懷まれるこいふこも、即ち星いふものは、是を仰ぐ人に、季節によつて、その見る感情を異にするこいふこをお話したいと思ひます。それは、例へば、このブレアデスに致しましても、私はこれが運よく冬空に現はれたが爲にその親しさや懷しさをかく迄も私達に認められたのではないかと思ふのです。假に若し、このブレアデスが春の宵空に現はれたとして御覽なさい。私達はその時は恐らくは、今より一層淡く瞬くであらう微かなこれらの星々に對して蟹座のブレセーベ程にさへも感ずるこはないでせう。實際この澄み切つた霜枯れの寒空に、池の凍りつく様な透徹した群星の輝きに立交つて居てこそ、始めて、あれまでの優しき懷しみと、そして魅惑的な感情とを與へる事が出来るのではないでせうか。若し之れが生温い夏の宵なごに、ほんやり出て來たのでは左迄の興味もひかなかつたのでは御座いますまいか誠に星は季節によつてその感情を異にする。ブレアデスは此冬空にあつて、始めて私に之だけの情操を與へたので御座い

ます。私の好きなブレアデスは、必ず冬の夜空を飾る星々でなくてはならないのです。

では皆さん。私は私のブレアデスを通じて、皆さんに、皆さんがお互に天界の爲に、ひいては私達人類の爲に、近年の中になり、私達會員の数が、あのブレアデスのそれにも優つてより多くなります様に、御奮闘を希望いたして置ます。「ブレアデスミ私」これで打切り致します。……終り……

大阪市教育會天文講演會

去る十月二十六日午後二時より船場小學校に於いて天文講演會を開催し講師理學博士山本一清先生の「太陽と其の黒點活動」の講演があつた。定刻已に三百の聽衆が押し寄せた。大阪市教育會主事松本朝吉氏その他幹部列席の上理事吉岡哲夫氏の開會の辭あり。天文は趣味としても有益なものであり殊に教育上天文知識普及の大切な事特に太陽と人生の關係の重大なる事より今日の所掲の演題のことに講演會を開くに至つた次第」を述べられた。引も續き講演に移り、山本博士が「太陽の起原、太陽の大きさ、黒點とは何ぞ、黒點の地球に及ぼす影響」等の項目に互り、約二時間餘、素人にも徹底する様懇々説明あり、聽衆をして「太陽の偉大なること、黒點の正體は何であるか」を得せしめられ、最後に黒點の地球に及ぼす影響としては、黒點活動は太陽磁氣の影響を地球磁氣の上に及ぼすべきは確かなるも世間に流布せられたる如き迷信的影響はあるべきでないことを力説し、以て一般の迷信打破に有益なる反響を與へられ、講演終つて、引きつゞき天文幻燈を以て天文的事實或は歐米の天文臺等の紹介あり、一層興味を喚起せられた。大阪市教育會は、此の舉により、一は天文知識を普及し、一は天文の趣味の喚起上多大なる効果を收め得たることを、信じて會況大要を誌上に報告することとした。(M、T生記)